

# デーヴォ ガイド



**2025.4.28-5.4**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?) 1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

16:1 レビの子であるケハテの子イツハルの子コラは、ルベンの子孫であるエリアブの子ダタンとアビラム、およびベレテの子オンと共謀して、

16:2 モーセに立ち向かった。イスラエルの子らで、会衆の上に立つ族長たち、会合から召し出された名のある者たち二百五十人も、彼らと一緒にあった。

16:3 彼らはモーセとアロンに逆らって結集し、二人に言った。「あなたがたは分を超えている。全会衆残らず聖なる者であって、【主】がそのうちにおられるのに、なぜ、あなたがたは【主】の集会の上に立つのか。」

16:4 モーセはこれを聞いてひれ伏した。

16:5 それから、コラとそのすべての仲間とに告げた。「明日の朝、【主】は、だれがご自分に属する者か、だれが聖なる者を示し、その人をご自分に近寄せられるか。主は、ご自分が選ぶ者をご自分に近寄せられるのだ。」

16:6 こうしなさい。コラとそのすべての仲間よ。あなたがたは火皿を取り、

16:7 明日、【主】の前でその中に火を入れ、その上に香を盛りなさい。【主】がお選びになるその人が、聖なる者である。レビの子たちよ、あなたがたが分を超えているのだ。」

16:8 モーセはコラに言った。「レビの子たちよ、よく聞きなさい。

16:9 あなたがたは、何か不足があるのか。イスラエルの神が、あなたがたをイスラエルの会衆から分けて、【主】の幕屋の奉仕をするように、また会衆の前に立てて彼らに仕えるように、ご自分に近寄せてくださったのだ。」

16:10 こうしてあなたを、そして、あなたの

同族であるレビ族をみな、あなたと一緒に近寄せてくださったのだ。それなのに、あなたがたは祭司の職まで要求するのか。

16:11 事実、一つになって【主】に逆らっているのは、あなたとあなたの仲間全員だ。アロンが何だからといって、彼に対して不平を言うのか。」

16:12 モーセは人を遣わして、エリアブの子のダタンとアビラムとを呼び寄せようとしたが、彼らは言った。「われわれは行かない。

16:13 あなたは、われわれを乳と蜜の流れる地から連れ上って、荒野で死なせようとし、そのうえ、われわれの上に君臨している。それでも不足があるのか。

16:14 しかも、あなたは、乳と蜜の流れる地にわれわれを導き入れず、畑とぶどう畑を、受け継ぐべき財産としてわれわれに与えてもいない。あなたは、この人たちの目をくらまそうとするのか。われわれは行かない。」

モーセも神の前には不完全なものに過ぎません。しかし主からの使命を受けて、その使命を全うしようとする者には、主の守りがあります。指導する者もされる者も、また助ける者も助けられる者も、状況の中で使命を果たすことは尊いことです。

コラたちの主張は人間中心に考えればもっともに聞こえます。「全会衆残らず聖なるもの」であって、モーセとアロンだけが特権を持つことは平等性を欠いています。しかし彼らの動機はどうも不信仰と妬みであったようです(13節以降)。

モーセは指導者としての使命を正しく全うできたので、主から認められたのだと思われまふ。彼は言い争うことはしないで、「ひれ伏し」て、謙遜と主への従順を表わしました。そして主の判断に委ねたのです。

私たちは自分が正しいと思えるとき、または論争に勝てると思えるとき、相手を説得しようとしてしまいがちですが、それは人間が勝ったことにしかありません。主に委ねましょう。そのような信仰を持った人を主は認めてくださいます。主の最善がなされます。

コラと共謀したダタンとアビラムの主張は事実を歪めたものでした。自分たちが奴隷で死と隣り合わせであったエジプトを「乳と蜜の流れる地」と言い、「荒野で死なせようとし…君臨」と極端に歪曲した表現をし、「あなたは…導き入れず」と民の不信仰の結果をモーセに責任転嫁しています。神様から離れた思いで人を批判しようとする、このように歪曲と責任転嫁をするようになります。気を付けましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



16:15 モーセは激しく怒った。そして【主】に言った。「どうか、彼らのささげ物を願わないでください。私は彼らから、ろば一頭も取り上げたことはなく、彼らのうちのだれも傷つけたことはありません。」

16:16 それからモーセはコラに言った。「明日、あなたとあなたの仲間のみな、【主】の前に出なさい。あなたも彼らも、そしてアロンも。」

16:17 あなたがたは、それぞれ自分の火皿を取り、その上に香を盛り、それぞれ【主】の前に持って行きなさい。二百五十の火皿を、あなたもアロンも、それぞれ自分の火皿を持って行きなさい。」

16:18 彼らはそれぞれ自分の火皿を取り、それに火を入れて、その上に香を盛った。そしてモーセとアロンと一緒に会見の天幕の入り口に立った。

16:19 コラは、二人に逆らわせようとして、全会衆を会見の天幕の入り口に集めた。そのとき、【主】の栄光が全会衆に現れた。

16:20 【主】はモーセとアロンに告げられた。

16:21 「あなたがたはこの会衆から離れよ。わたしは彼らをたちどころに滅ぼし尽くす。」

16:22 二人はひれ伏して言った。「神よ、すべての肉なるものの霊をつかさどる神よ。一人の人が罪ある者となれば、全会衆に御怒りを下されるのですか。」

16:23 【主】はモーセに告げられた。

16:24 「会衆に告げて、コラとダタンとアビラムの住まいの周辺から引き下がるように言え。」

16:25 モーセは立ち上がり、ダタンとアビラムのところへ行った。イスラエルの長老たちもついて行った。

16:26 そして会衆に告げた。「さあ、この悪い者どもの天幕から離れなさい。彼らのものには何もさわってはならない。彼らのすべての罪のゆえに、あなたがたが滅ぼし尽くされるといけないから。」

16:27 それでみなは、コラとダタンとアビラムの住まいの周辺から離れ去った。ダタンとアビラムは、妻子、幼子たちと一緒に出て来て、自分たちの天幕の入り口に立った。

16:28 モーセは言った。「私を遣わして、これらのわざを行わせたのは【主】であり、私自身の考えからではないことが、次のことによってあなたがたに分かる。」

16:29 もしこの者たちが、すべての人が死ぬように死に、すべての人のためにあうなら、私を遣わしたのは【主】ではない。

16:30 しかし、もし【主】がこれまでにないことを行われるなら、すなわち、地がその口を開けて、彼らと彼らに属する者たちをことごとく?み込み、彼らが生きたままよみに下るなら、あなたがたはこれらの者たちが【主】を侮ったことを知らなければならぬ。」

16:31 モーセがこれらのことばをみな言い終えるやいなや、彼らの足もとの地面が割れた。

16:32 地は口を開けて、彼らとその家族、またコラに属するすべての者と、すべての所有物を?み込んだ。

16:33 彼らと彼らに属する者はみな、生きたまま、よみに下った。地は彼らを包み、彼らは集会の中から滅び失せた。

16:34 彼らの周りにいたイスラエル人はみな、彼らの叫び声を聞いて逃げた。

「地がわれわれも?み込んでしまわないか」と人々は思ったのである。

16:35 また、火が【主】のところから出て、香を献げていた二百五十人を焼き尽くした。

モーセは自分が非難されたときには「ひれ伏し(4節)」しましたが、神のみわざが歪曲されたときには「激しく怒った」ようです。もしかしらこの時点で、批判者が主に受け入れられないことを確信したかも知れません。

主は「あの者どもをたちどころに絶滅してしまおう」と言われました。これに対してモーセとアロンは「全会衆に御怒りを下されるのですか、民のためにとりなしをしていただけます。ここに彼らが主から選ばれた理由があるようです。」

主から立てられた指導者を尊重することが重要です。そして指導する者は、相手が一人であっても大勢であっても、モーセのように主の前に正しい動機で、主の主権の前にひれ伏して導かなくてはなりません。

31節から、天災とも言えるような出来事が起こされました。反逆した者たちは、家族や縁者たちとともに、地に飲み込まれました。家族もともに滅ぼされたのは、彼らが反逆の張本人とともにいて離れなかったからかも知れません。主は「悪者どもの天幕から離れるように警告していたにも関わらず。またモーセに逆らった二百五十人も滅ぼされました。人の思いよりも主の御心に従いましょう。」

①神のみこころは？ ②どんな思いになりましたか？ ③生き方にどう適用しますか？ ④この世にあって何を実践しますか？

## 30日 水曜

民数



16:36 【主】はモーセに告げられた。  
16:37 「あなたは、祭司アロンの子エルアザルに命じて、炎の中から火皿を取り出し、火を遠くにまき散らさせよ。それらは聖なるものとなっているから。  
16:38 いのちを失うことになったこれらの罪人たちの火皿は、打ちたたいて延べ板とし、祭壇のためのかぶせ物とせよ。それらは、【主】の前に献げられたので、聖なるものとなっているからである。これらはイスラエルの子らに対するしるしとなる。」  
16:39 そこで祭司エルアザルは、焼き殺された者たちが献げた青銅の火皿を取り、それを打ち延ばして祭壇のためのかぶせ物とし、  
16:40 そのことがイスラエルの子らに覚えられるようにした。これは、アロンの子孫以外の資格のない者が、【主】の前に進み出て香をたくことの無いようにするため、その人が、コラやその仲間のような目にあわないようにするためである。【主】がモーセを通してエルアザルに言われたとおりである。  
16:41 その翌日、イスラエルの全会衆は、モーセとアロンに向かって不平を言った。「あなたがたは【主】の民を殺した。」  
16:42 会衆がモーセとアロンに逆らって結集したとき、二人が会見の天幕の方を振り向くと、見よ、雲がそれをおおい、【主】の栄光が現れた。  
16:43 モーセとアロンは会見の天幕の前に来た。  
16:44 【主】はモーセに告げられた。  
16:45 「あなたがたはこの会衆から離れ去れ。わたしはこの者どもをたちどころに絶ち滅ぼす。」二人はひれ伏した。

16:46 モーセはアロンに言った。「火皿を取り、祭壇から火を取ってそれに入れ、その上に香を盛りなさい。そして急いで会衆のところへ持って行き、彼らのために宥めを行いなさい。【主】の前から激しい御怒りが出て来て、神からの罰がもう始まっている。」  
16:47 モーセが命じたとおり、アロンが火皿を取って集会のただ中に走って行くと、見よ、神の罰はすでに民のうちに始まっていた。彼は香をたいて、民のために宥めを行った。  
16:48 彼が死んだ者たちと生きている者たちとの間に立ったとき、主の罰は終わった。  
16:49 コラの事件で死んだ者とは別に、この主の罰で死んだ者は、一万四千七百人であった。  
16:50 アロンが会見の天幕の入り口にいるモーセのところへ戻ったときに、主の罰は終わっていた。

主に忠実であったモーセに逆らうということは、主に逆らうことになり、それは民全体も荒野で滅びるという結果になるます。ですから主のさばきは民全体を生かすためです。反逆はコラ、ダタン、アビムたちが始めたことでしたが、扇動された人々も同じく滅ぼされたのは、やはり民全体のためでした。イスラエルは共同体としてきよめられたのです。

反逆の3人は二百五十人に影響を与えたのですから、ある意味で指導者的であったかもしれませんが。しかし彼らは主に従わずに、自分たちのプライドや名誉欲に従ったのです。

私たちが教会などでは、ある時は指導する立場であり、またある時は指導される立場となるでしょう。モーセのように謙遜で従順な指導者であ

りましょう。また神に立てられた指導者には、民全体のためにもその権威を尊重しましょう。

反逆によってさばかれたことを、忘れないように、「祭壇のための被金」をつくりました。特にこれは「ほかの者（正しい祭司でない者）が…煙を立ち上らせることがないため」です。それは永遠の大祭司であるイエス様のひな型だから重要なのです。これをいい加減にするなら、イエス様のメシア像も曖昧になってしまいます。

イスラエルの会衆が「あなたがたは主の民を殺した。」と言いました。まだモーセへの不満が残っていたのか、または自分たちも同じ目に会うのではないという恐れから敵対心を持ったのか、または絶たれた人々への人間的な同情であったのかも知れません。

いずれにしても、このさばきはモーセがしたのではなく主のわざあり、反逆が原因なのですが、彼らはそれさえ責任転嫁してしまいました。主はこれらの民をも絶たなくてはなりませんでした。このことは私たちに教訓をあたえます。

神の共同体にトラブルが生じたときは、単に誰かを批判するようであってはなりません。主のみこころの真理をよくよく教えていただく必要があるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 1日 木曜

### 民数



17:1 【主】はモーセに告げられた。  
17:2 「イスラエルの子らに告げ、彼らから杖を、部族ごとに一本ずつ、彼らの部族のすべての族長から十二本の杖を取れ。その杖に各自の名を書き記さなければならない。  
17:3 レビの杖にはアロンの名を書き記さなければならない。彼らの部族のかしらにそれぞれ一本の杖とするからだ。  
17:4 あなたはそれらを、会見の天幕の中の、わたしがそこであなたがたに会うあかしの箱の前に置け。  
17:5 わたしが選ぶ人の杖は芽を出す。こうしてわたしは、イスラエルの子らがあなたがたに向かって言い立てている不平を、わたし自身から遠ざけ、鎮める。」  
17:6 モーセがイスラエルの子らにこのように告げたので、彼らの族長たちはみな、部族ごとに、族長一人に一本ずつの杖、十二本を彼に渡した。アロンの杖も彼らの杖の中にあった。  
17:7 モーセはそれらの杖を、【主】の前、すなわちあかしの天幕の中に置いた。  
17:8 その翌日、モーセはあかしの天幕に入って行った。すると見よ。レビの家のためのアロンの杖が芽を出し、つぼみをつけ、花を咲かせて、アーモンドの実を結んでいた。  
17:9 モーセがそれらの杖をみな、【主】の前からすべてのイスラエルの子らのところに持って来たので、彼らは見て、それぞれ自分の杖を取った。  
17:10 【主】はモーセに言われた。「アロンの杖をあかしの箱の前に戻して、逆らう者たちへの戒めのために、しるしとせよ。彼らの

不平をわたしから全くなぐせ。彼らが死ぬことのないようにするためである。」  
17:11 モーセはそのようにした。【主】が命じられたとおりにしたのである。  
17:12 しかし、イスラエルの子らはモーセに言った。「ああ、われわれは死んでしまう。われわれは滅びる。全員が滅びるのだ。  
17:13 すべて近づく者、【主】の幕屋に近づく者が死ななければならないとは。ああ、われわれはみな、死に絶えなければならないのか。」

イスラエルの民は罰せられても、まだモーセと主に逆らいました。それで何度も罰せられたのですが、ここで主はその指導者の権威を明かになさいました。すなわち、12本の杖のうちアロンの杖だけが芽、つぼみ、花、実を付けたのです。このように神の共同体をまとめあげるためには、神の権威が明かになることが力になります。新約においては聖書の裏づけと聖霊のみわざです。さらにこの杖はヘブル書によると、イエス様を表わすものであって、そこには救いをもたらす権威があるのです。イエス様の救いがあるなら、そこには主が働いておられるので、その権威を尊重して従わなくてはなりません。それは導く者も同じで、自分の権威ではなく、主の権威を尊重するのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



18:1 そこで、【主】はアロンに言われた。「あなたと、あなたとともにいるあなたの子たちと、あなたの父の家の者たちは、聖所に関わる咎を負わなければならない。また、あなたと、あなたとともにいるあなたの子たちは、あなたがたの祭司職に関わる咎を負わなければならない。」

18:2 また、あなたの父祖の部族であるレビ部族の、あなたの身内の者たちも、あなたの近くに來させよ。彼らがあなたに連なり、あかしの天幕の前で、あなたと、あなたとともにいるあなたの子たちに仕えるためである。

18:3 彼らはあなたのための任務と、天幕全体の任務に当たる。しかし彼らは、聖なる用具と祭壇に近づいてはならない。彼らも、あなたがたも、死ぬことのないようにするためである。

18:4 彼らはあなたに連なり、天幕の奉仕のすべてに関わる、会見の天幕の任務に当たる。資格のない者があなたがたに近づいてはならない。

18:5 あなたがたは、聖所の任務と祭壇の任務を果たしなさい。そうすれば、イスラエルの子らに再びわたしの激しい怒りが下ることはない。

18:6 今ここに、わたしは、あなたがたの同族レビ人をイスラエルの子らの中から取り、会見の天幕の奉仕をするために【主】に献げられた者として、あなたがたへの贈り物とする。

18:7 あなたと、あなたとともにいるあなたの子たちは、祭壇に関するすべてのことや、垂れ幕の内側のことについて自分の祭司職を守り、奉仕しなければならない。わたしはあな

たがたの祭司職の奉仕を賜物として与える。資格なしにこれに近づく者は殺されなければならない。」

18:8 【主】はまたアロンに言われた。「今わたしは、わたしへの奉納物に関わる任務をあなたに与える。わたしはイスラエルの子らのすべての聖なるささげ物について、これをあなたが受け取る分とし、またあなたの子たちへの永遠の割り当てとする。

18:9 火による最も聖なるもののうちで、あなたのものであるのは次のとおりである。わたしに納めるすべてのささげ物、すなわち穀物のささげ物、罪のきよめのささげ物、代償のささげ物、これらすべては、あなたとあなたの子たちにとって最も聖なるものである。

18:10 あなたはそれを最も聖なるものとして食べなければならない。すべての男子は、それを食べることができる。それはあなたにとって聖なるものである。

18:11 また次の物もあなたのものである。イスラエルの子らの贈り物である奉納物、彼らのすべての奉納物、これをわたしはあなたと、あなたとともにいる息子たちと娘たちに与え、永遠の割り当てとする。あなたの家にいるきよい者はだれでも、それを食べることができる。

18:12 最良の新しい油、新しいぶどう酒の最良のものと穀物、人々が【主】に供えるこれらの初物すべてをあなたに与える。

18:13 彼らの地のすべての物の初なりで、彼らが【主】に携えて来る物は、あなたのものである。あなたの家にいるきよい者はだれでも、それを食べることができる。

18:14 イスラエルのうちで聖絶の物はみな、

あなたのものである。

18:15 人でも家畜でも、【主】に献げられるすべての肉なるもので、最初に胎を開くものはみな、あなたのものである。ただし、人の長子は、必ず贖わなければならない。また、汚れた家畜の初子も贖わなければならない。

18:16 その贖いの代金として、生後一か月たってから、一シェケル二十ゲラの聖所のシェケルで、銀五シェケルを払わなければならない。

18:17 ただし、牛の初子、または羊の初子、あるいはやぎの初子は贖ってはならない。これらは聖なるものだからである。あなたはそれらの血を祭壇に振りかけ、脂肪を食物のささげ物、【主】への芳ばしい香りとして、焼いて煙にしなければならない。

18:18 その肉はあなたのものである。それは奉献物の胸肉や右のもも肉と同様にあなたのものである。

18:19 イスラエルの子らが【主】に献げる聖なる奉納物をみな、わたしは、あなたと、あなたとともにいる息子たちと娘たちに与えて、永遠の割り当てとする。それは、【主】の前において、あなたとあなたの子孫に対する永遠の塩の契約となる。」

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## 3日 土曜

### 民数

18:20 【主】はまたアロンに言われた。

「あなたは彼らの地で相続地を持ってはならない。彼らのうちに何の割り当て地も所有してはならない。イスラエルの子らの中にあつて、わたしがあなたへの割り当てであり、あなたへのゆずりである。

18:21 さらに、レビ族には、わたしは今、彼らが行う奉仕、会見の天幕での奉仕に報い、イスラエルのうちの十分の一をみな、ゆずりものとして与える。

18:22 これからはもう、イスラエルの子らは、会見の天幕に近づいてはならない。彼らが罪責を負って死ぬことのないようにするためである。

18:23 会見の天幕の奉仕をするのはレビ人であり、レビ人が彼らの咎を負う。これは代々にわたる永遠の掟である。彼らはイスラエルの子らの中にあつて相続地を受け継いでではない。

18:24 それは、イスラエルの子らが奉納物として【主】に献げる十分の一を、わたしが相続のものとしてレビ人に与えるからである。それゆえわたしは、彼らがイスラエルの子らの中で相続地を受け継いでではない、と彼らに言ったのである。」

18:25 【主】はモーセに告げられた。

18:26 「あなたはレビ人に告げなければならぬ。わたしがあなたがたに相続のものとして与えた十分の一をイスラエルの子らから受け取る時、あなたがたはその十分の一の十分の一を、【主】への奉納物として献げなさい。

18:27 これは、打ち場からの穀物や、踏み場



からの豊かなぶどう酒と同じように、あなたがたの奉納物と見なされる。

18:28 こうして、あなたがたもまた、イスラエルの子らから受け取るすべての十分の一の中から、【主】への奉納物を献げなさい。その中から【主】への奉納物を祭司アロンに与えなさい。

18:29 あなたがたへのすべての贈り物のうち、それぞれの最上の部分で聖別される分から【主】へのすべての奉納物を献げなさい。

18:30 また、あなたは彼らに言え。あなたがたが、その中からその最上の部分を献げるとき、それはレビ人にとって打ち場からの収穫、踏み場からの収穫と見なされる。

18:31 あなたがたとその家族は、どこでもそれを食べてよい。これは会見の天幕でのあなたがたの奉仕に対する報酬だからである。

18:32 あなたがたが、その最上の部分を献げるとき、そのことで罪責を負うことはない。ただし、イスラエルの子らの聖なるささげ物を汚して、死ぬようなことがあってはならない。」

レビ人は幕屋の奉仕にあたる者ですから、神の聖なることを表すために、主ご自身の命令にしっかりと従う必要がありました。当然、畑や牧畜をする時間はありません。フルタイムで働くことを主は要求なさったということでしょう。

レビ人には他の部族のように土地は与えられませんでした。そこで主は「イスラエル人が、奉納物として主に供える十分の一を、わたしは彼らの相続財産としてレビ人に与える」と言われました。主は御自信のために働く者を決して乏しくさせないのです。

またレビ人の報酬をイスラエルの献げもので満たすということは、主の働き人を支えるという良

識を持つようにされたということでしょう。これは現在でも同じであり、そのようにパウロも勤めています。安心して主の働きを担いましょう。主が良くしてくださいませ。また主の働き人を支え合いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



19:1 【主】はモーセとアロンに告げられた。  
 19:2 「【主】が命じるおしへの定めは、こうである。イスラエルの子らに告げよ。まだくびきを負わせたことがなく、傷のない完全な、赤い雌牛をあなたのところに引いて来るようにと。  
 19:3 あなたがたはそれを祭司エルアザルに渡す。そして宿営の外に引き出し、彼の前で屠る。  
 19:4 祭司エルアザルは指で血を取り、会見の天幕の正面に向かってこの血を七度振りまく。  
 19:5 その雌牛は彼の目の前で焼き、皮と肉と血を汚物とともに焼く。  
 19:6 祭司は、杉の木とヒソブと緋色の撚り糸を取り、雌牛が焼かれている中に投げ入れる。  
 19:7 祭司は自分の衣服を洗い、からだに水を浴びる。その後、宿営に入ることができる。しかし、この祭司は夕方まで汚れる。  
 19:8 これを焼いた者も、自分の衣服を水で洗い、からだに水を浴びる。彼は夕方まで汚れる。  
 19:9 それから、きよい人がその雌牛の灰を集め、宿営の外のきよい所に置く。そして、イスラエルの会衆のために、汚れを除く水を作るために保存しておく。これは罪のきよめのささげ物である。  
 19:10 この雌牛の灰を集めた者は、自分の衣服を洗う。彼は夕方まで汚れている。これは、イスラエルの子らと、あなたがたの間に寄留している者にとって永遠の掟となる。

十字架のひな型です。水が一時的にであっても、汚れをきよめるのであれば、ましてやイエス様の十字架の犠牲はどれほど私たちをきよめることでしょう。

そこでこの雌牛の赤や血の赤は十字架の血を思わせるものです。また雄牛ではなく雌牛であるというのは、優しさを表わすもので、その命を犠牲にするとはまさにイエス様の愛を思わせるものです。

このようにイエス様の十字架がはるか昔から御計画されたもので、その理解のために主はここまで配慮をもってイスラエルを導かれたことをしりましょう。それはまさに私たちの救いも同じで、私たちは主の完全な御計画によって導かれて救われ、救われた後も導かれているのです。

感謝と確信を持って、その信仰を主と人の前に表わしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

